試験対策　税効果会計

例題　以下の①から⑤の問いに答えなさい。当期の税効果会計上の一時差異は次のとおりである。なお、その他有価証券の評価差額は時価と帳簿価額の差額の金額であり、△は評価減を表している。また、法定実効税率は40%である。

	前期末	当期末
貸倒引当金損金算入限度超過額	20,000円	15,000円
減価償却費損金算入限度超過額	40,000円	50,000円
その他有価証券の評価差額	△　8,000円	11,000円

①　当期の決算整理前残高試算表に計上される繰延税金資産の金額を答えなさい。なお、その他有価証券の評価差額については、期首に洗替処理を行っている。

②　当期の貸借対照表に計上される繰延税金資産の金額を答えなさい。なお、金額がゼロの場合は「－」と回答すること。

③　当期の貸借対照表に計上される繰延税金負債の金額を答えなさい。なお、金額がゼロの場合は「－」と回答すること。

④　当期の貸借対照表に計上されるその他有価証券評価差額金の金額を答えなさい。なお、純資産に与える影響がマイナスの場合は金額の前に「△」を付すこと。

⑤　当期の損益計算書に計上される法人税等調整額の金額を答えなさい。なお、利益に与える影響がマイナスの場合は金額の前に「△」を付すこと。

① 前期貸借対照表

前期貸借対照表（一部）

繰 延 税 金 資 産	27,200	その他有価証券評価差額金	△ 4,800

繰延税金資産：一時差異(20,000＋40,000＋8,000)×法定実効税率40%

＝27,200

その他有価証券評価差額金：8,000×(1－法定実効税率40%)＝4,800

② 当期首（洗替処理）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
そ の 他 有 価 証 券	**8,000**	**繰 延 税 金 資 産**	**3,200**
		その他有価証券評価差額金	**4,800**

繰延税金資産：8,000×法定実効税率40%＝3,200

③ 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表（一部）

繰 延 税 金 資 産	24,000	

繰延税金資産：前期末T/B 27,200－3,200＝24,000　又は、

その他有価証券評価差額金以外の前期末一時差異(20,000＋40,000)

×法定実効税率40%＝24,000

④ 決算整理

・その他有価証券

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
そ の 他 有 価 証 券	**11,000**	**繰 延 税 金 負 債**	**4,400**
		その他有価証券評価差額金	**6,600**

繰延税金負債：11,000×法定実効税率40%＝4,400

その他有価証券評価差額金：11,000×(1－法定実効税率40%)＝6,600

・その他有価証券以外

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
繰 延 税 金 資 産	**2,000**	**法 人 税 等 調 整 額**	**2,000**

繰延税金資産：{当期末(15,000＋50,000)－前期末(20,000＋40,000)}

×法定実効税率40%＝2,000

・相殺

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
繰延税金負債	**4,400**	**繰延税金資産**	**4,400**

繰延税金資産：相殺前繰延税金資産26,000 ＞ 相殺前繰延税金負債4,400

したがって、4,400を相殺する。

相殺前繰延税金資産：前T/B 24,000＋2,000＝26,000

⑤　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

繰延税金資産	21,600	その他有価証券評価差額金	6,600
		法人税等調整額	2,000

繰延税金資産：前T/B 24,000＋2,000－4,400＝21,600

・解答

①当期の決算整理前残高試算表に計上される繰延税金資産：24,000

②当期の貸借対照表に計上される繰延税金資産：21,600

③当期の貸借対照表に計上される繰延税金負債：－

④当期の貸借対照表に計上されるその他有価証券評価差額金：6,600

⑤当期の損益計算書に計上される法人税等調整額：2,000

試験対策　連結会計

例題　次の資料にもとづき、当期（2031年4月1日から2032年3月31日）の連結損益計算書を作成し、連結貸借対照表における①貸倒引当金、②商品、③のれん、④利益剰余金、⑤非支配株主持分の金額を答えなさい。

［資料］

1. P社は2030年3月31日にS社の発行済株式総数の60%を50,000円で取得して支配を獲得し、それ以降S社を連結子会社として連結財務諸表を作成している。のれんの償却は支配獲得時の翌年度から10年間で均等償却を行っている。2030年3月31日におけるS社の貸借対照表における純資産の要約は以下のとおりである。

　資　本　金：60,000　　資本剰余金：16,000　　利益剰余金：4,000

2. S社の前期の当期純利益は16,000円であった。S社は前期に配当を行っていない。

3. P社およびS社の当期の貸借対照表と損益計算書は、次のとおりである。

貸借対照表

科目	P社	S社	科目	P社	S社
諸　資　産	321,200	122,600	諸　負　債	80,000	36,000
売　掛　金	60,000	30,000	買　掛　金	32,000	34,000
貸倒引当金	△1,200	△600	資　本　金	280,000	60,000
商　　品	30,000	40,000	資本剰余金	20,000	16,000
子会社株式	50,000	―	利益剰余金	48,000	46,000
合計	460,000	192,000	合計	460,000	192,000

損益計算書

科目	P社	S社	科目	P社	S社
売上原価	360,000	280,000	売　上　高	480,000	360,000
販売費及び一般管理費	80,000	40,000	営業外収益	10,000	2,000
営業外費用	5,000	6,000			
当期純利益	45,000	36,000			
合計	490,000	362,000	合計	490,000	362,000

4. S社は当期中に10,000円の配当を行っている。

5. S社の売掛金のうち、20,000円はP社に対するものであり、2%の貸倒引当金を設定している。S社の売上高のうち、130,000円はP社に対するものである。

6. P社の商品のうち15,000円はS社から仕入れたものである。なお、当期からS社は仕入金額に20%の利益を加算して、P社へ商品を販売している。

本問では連結損益計算書と連結貸借対照表の一部の項目が問われていますが、すべての連結財務諸表を作成する場合と同様に、連結仕訳を行って必要な数値を算定して下さい。

① 開始仕訳

・前期の開始仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金当期首残高	60,000	子会社株式	50,000
資本剰余金当期首残高	16,000	非支配株主持分当期首残高	32,000
利益剰余金当期首残高	4,000		
のれん	2,000		

非支配株主持分当期首残高：(資本金60,000＋資本剰余金16,000
＋利益剰余金4,000)×非支配株主持分比率40%＝32,000

のれん：50,000－(資本金60,000＋資本剰余金16,000＋利益剰余金4,000)
×親会社持分比率60%＝2,000

・前期の当期純利益の按分

借方科目	金額	貸方科目	金額
利益剰余金当期首残高	6,400	非支配株主持分当期首残高	6,400

利益剰余金当期首残高：前期当期純利益16,000×非支配株主持分比率40%
＝非支配株主に帰属する当期純利益6,400

・前期ののれんの償却

借方科目	金額	貸方科目	金額
利益剰余金当期首残高	200	のれん	200

利益剰余金当期首残高：のれん2,000÷10年＝のれん償却200

・当期の開始仕訳（上記の合計）

借方科目	金額	貸方科目	金額
資本金当期首残高	**60,000**	**子会社株式**	**50,000**
資本剰余金当期首残高	**16,000**	**非支配株主持分当期首残高**	**38,400**
利益剰余金当期首残高	**10,600**		
のれん	**1,800**		

利益剰余金当期首残高：取得時利益剰余金4,000
＋前期非支配株主に帰属する当期純利益6,400
＋前期のれん償却200＝10,600

のれん：支配獲得時におけるのれん2,000－前期のれん償却200=1,800

非支配株主持分当期首残高：{資本金60,000＋資本剰余金16,000
＋利益剰余金(4,000＋16,000)}×非支配株主持分比率40%＝38,400

② 当期純利益の按分

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
非支配株主に帰属する当期純利益	**14,400**	**非支配株主持分当期変動額**	**14,400**

非支配株主に帰属する当期純利益：36,000×非支配株主持分比率40%＝14,400

③ のれんの償却

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
販売費及び一般管理費	**200**	**の れ ん**	**200**

販売費及び一般管理費：のれん2,000÷10年＝のれん償却200

④ 配当の消去・修正

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
営 業 外 収 益	**6,000**	**剰 余 金 の 配 当**	**10,000**
非支配株主持分当期変動額	**4,000**		

営業外収益：10,000×親会社持分比率60%＝受取配当金6,000

非支配株主持分当期変動額：10,000×非支配株主持分比率40%＝4,000

⑤ 売掛金と買掛金の相殺消去

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
買 掛 金	**20,000**	**売 掛 金**	**20,000**

⑥ 貸倒引当金の消去

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
貸 倒 引 当 金	**400**	**販売費及び一般管理費**	**400**
非支配株主に帰属する当期純利益	**160**	**非支配株主持分当期変動額**	**160**

販売費及び一般管理費：20,000×2%＝貸倒引当金繰入400

非支配株主持分当期変動額：400×非支配株主持分比率40%＝160

⑦ 売上高と仕入高の相殺消去

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
売 上 高	**130,000**	**売 上 原 価**	**130,000**

⑧　未実現利益の消去

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　上　原　価	**2,500**	**商　　　　品**	**2,500**
非支配株主持分当期変動額	**1,000**	**非支配株主に帰属する当期純利益**	**1,000**

売上原価：15,000÷(１＋付加利益率0.2)×付加利益率0.2＝2,500

非支配株主持分当期変動額：2,500×非支配株主持分比率40％＝1,000

⑨　解答

・連結損益計算書

連結損益計算書

科目	金額
売上高	710,000
売上原価	512,500
売上総利益	197,500
販売費及び一般管理費	119,800
営業利益	77,700
営業外収益	6,000
営業外費用	11,000
当期純利益	72,700
非支配株主に帰属する当期純利益	13,560
親会社株主に帰属する当期純利益	59,140

売上高：P社480,000＋S社360,000－130,000＝710,000

売上原価：P社360,000＋S社280,000－130,000＋未実現利益2,500＝512,500

販売費及び一般管理費：P社80,000＋S社40,000＋のれん償却200
－貸倒引当金繰入400＝119,800

営業外収益：P社10,000＋S社2,000－受取配当金6,000＝6,000

非支配株主に帰属する当期純利益：当期純利益の按分14,400
＋貸倒引当金の消去160－未実現利益の消去1,000＝13,560

・連結貸借対照表の項目

①貸倒引当金：P社1,200＋S社600－貸倒引当金の消去400＝1,400

②商品：P社30,000＋S社40,000－未実現利益2,500＝67,500

③のれん：開始仕訳1,800－のれん償却200＝1,600

④利益剰余金：連結上の利益剰余金期首残高12,400

＋連結P/L 親会社株主に帰属する当期純利益59,140＝71,540

又は、P社48,000＋S社46,000－開始仕訳10,600

－非支配株主に帰属する当期純利益14,400－のれん償却200－受取配当金6,000

＋剰余金の配当10,000＋貸倒引当金の消去(400－160)

－未実現利益の消去(2,500－1,000)＝71,540

・連結上の利益剰余金期首残高：P社(B/S 利益剰余金48,000－当期純利益45,000)

＋S社(B/S 利益剰余金46,000－当期純利益36,000＋配当10,000)

－開始仕訳10,600＝12,400

⑤非支配株主持分：開始仕訳38,400＋当期純利益の按分14,400

－配当の消去・修正4,000＋貸倒引当金の消去160

－未実現利益の消去1,000＝47,960

又は、(資本金60,000＋資本剰余金16,000＋利益剰余金46,000)

×非支配株主持分比率40%＋貸倒引当金の消去160

－未実現利益の消去1,000＝47,960

⑩　連結貸借対照表（参考）

連結貸借対照表

科目	金額	科目	金額
諸資産	443,800	諸負債	116,000
売掛金	70,000	買掛金	46,000
貸倒引当金	△1,400	資本金	280,000
商品	67,500	資本剰余金	20,000
のれん	1,600	利益剰余金	71,540
		非支配株主持分	47,960
合計	581,500	合計	581,500

資本金：P社280,000

資本剰余金：P社20,000

売掛金：P社60,000＋S社30,000－20,000＝70,000

買掛金：P社32,000＋S社34,000－20,000＝46,000

試験対策　製造業会計

例題　受注生産・販売を行っている当社（決算日３月末）に関して、以下の資料に基づいて、①から⑤の問いに答えなさい。

① 損益計算書に計上される売上総利益の金額を答えなさい。
② 当期の貸借対照表に計上される建物（減価償却累計額控除後）の金額を答えなさい。
③ 材料に関する棚卸減耗費の金額を答えなさい。
④ 当期の貸借対照表に計上される仕掛品の金額を答えなさい。
⑤ 製品に関する棚卸減耗費の金額を答えなさい。

［資料１］当期2月末現在の各勘定の残高は以下のとおりであった。

材　料：40,000円、仕掛品：55,000円、製　品：60,000円
建　物：1,500,000円、建物減価償却累計額：818,750円
売　上：3,500,000円、売上原価：2,450,000円

［資料２］当期3月の取引・決算整理に関する事項

1.　3月について、材料仕入高95,000円、直接材料費85,000円、直接工直接作業賃金支払高（月初・月末未払なし）84,000円、製造間接費予定配賦額80,000円、間接材料費実際発生額24,000円、間接材料費と以下の事項から判明するもの以外の製造間接費実際発生額39,800円、月完成品総合原価255,000円、当月売上原価240,000円（原価差額及び製品の棚卸減耗計上前の金額）、当月売上高342,000円であった。
　原価差異は、すべて少額であり正常な原因によるものであったため、売上原価に賦課するものとする。
2.　決算にあたり実地棚卸を行ったところ、材料実際有高は25,000円、製品実際有高は73,500円であった。棚卸減耗は材料・製品ともに正常な原因により生じたものであり、製品の棚卸減耗は売上原価に賦課する。
3.　固定資産の減価償却費については、期首に年間発生額を見積もり、以下の月割額を毎月計上し、決算月も同様な処理を行う。

建　物：6,250円（製造活動用5,000円、販売・一般管理活動用1,250円）
機　械：12,000円（すべて製造用）

① 材料（掛取引を仮定しています）

借方科目	金額	貸方科目	金額
材料	**95,000**	**買掛金**	**95,000**
仕掛品	**85,000**	**材料**	**109,000**
製造間接費	**24,000**		
材料棚卸減耗費	**1,000**	**材料**	**1,000**
製造間接費	**1,000**	**材料棚卸減耗費**	**1,000**

材料棚卸減耗費：材料帳簿残高26,000－材料実際有高25,000＝1,000

材料帳簿残高：月初残高40,000＋当月購入95,000

－直接材料費85,000－間接材料費24,000＝26,000

材　料

月初残高	40,000	直接材料費	85,000
当月購入	95,000	間接材料費	24,000
		月末残高	∴ 26,000

② 直接労務費（現金取引を仮定しています）

借方科目	金額	貸方科目	金額
賃金	**84,000**	**現金**	**84,000**
仕掛品	**84,000**	**賃金**	**84,000**

③　製造間接費（現金取引を仮定しています）

借方科目	金額	貸方科目	金額
製造間接費	**39,800**	**現金**	**39,800**
建物減価償却費	**6,250**	**建物減価償却累計額**	**6,250**
機械減価償却費	**12,000**	**機械減価償却累計額**	**12,000**
製造間接費	**17,000**	**建物減価償却費**	**5,000**
		機械減価償却費	**12,000**
仕掛品	**80,000**	**製造間接費**	**81,800**
原価差異	**1,800**		

製造間接費

間接材料費	24,000		
材料棚卸減耗費	1,000	仕掛品	80,000
減価償却費	17,000		
その他	39,800	原価差異	∴ 1,800

④　完成品の振替

借方科目	金額	貸方科目	金額
製品	**255,000**	**仕掛品**	**255,000**

仕　掛　品

月初残高	55,000		
直接材料費	85,000	完成品原価	255,000
直接労務費	84,000		
製造間接費	80,000	月末残高	∴ 49,000

⑤　売上及び売上原価への振替（掛取引を仮定しています）

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**342,000**	**売上**	**342,000**
売上原価	**240,000**	**製品**	**240,000**
売上原価	**1,800**	**原価差異**	**1,800**
製品棚卸減耗費	**1,500**	**製品**	**1,500**
売上原価	**1,500**	**製品棚卸減耗費**	**1,500**

製品棚卸減耗費：製品帳簿残高75,000－製品実際有高73,500＝1,500

製品帳簿残高：月初残高60,000＋当月完成255,000－売上原価240,000

＝75,000

製品

借方		貸方	
月初残高	60,000	売上原価	240,000
完成品原価	255,000	月末残高	∴ 75,000

・解答

①売上総利益：売上高3,842,000－売上原価2,693,300=1,148,700

売上高：2月末残高3,500,000＋342,000＝3,842,000

売上原価：2月末残高2,450,000＋240,000＋1,800＋1,500＝2,693,300

②建物（減価償却累計額控除後）：

1,500,000－減価償却累計額(2月末残高818,750＋6,250)＝675,000

③材料に関する棚卸減耗費：材料帳簿残高26,000－材料実際有高25,000＝1,000

④仕掛品：月初残高55,000＋直接材料費85,000＋直接労務費84,000

＋製造間接費予定配賦額80,000－完成品原価255,000＝49,000

⑤製品に関する棚卸減耗費：製品帳簿残高75,000－製品実際有高73,500＝1,500